

# 城南総合研究所 調査報告書No.20

## 小泉純一郎元総理が“鹿児島市内で講演” 「原発ゼロで日本は発展する」 川内原発再稼働を牽制

「原発ゼロで日本はやっていける」。去る平成27年6月4日、九州電力の川内原発の再稼働が今夏にも迫る中、城南信用金庫のシンクタンクである「城南総合研究所」の名誉所長小泉純一郎元内閣総理大臣が、同原発の地元の鹿児島を訪れ、講演会を行いました。

小泉元総理は、詰めかけた900人以上の聴衆の前に、「原発は環境汚染産業」「税金を投入しなければ成り立たない」「原発ゼロ、自然エネルギー推進で日本の発展はある」と、約1時間余り熱弁を振るわれ、会場は拍手喝采に包まれました。



### 小泉純一郎氏講演会「日本の歩むべき道」

主催 大切な歴史のふるさと鹿児島を考える会

うちのオヤジは鹿児島出身で、私も故郷のように思っています。その鹿児島で、ふるさとを大事にし、真剣に環境問題、生活問題を考えておられる皆さんに、私の話を少しでも参考にしていただければと思います。



### 原発が「安全・安い・クリーン」は全て嘘

「総理のころは原発を推進していて、やめてから原発ゼロなんて言うのは無責任じゃないか」という批判を受けます。「原発は安全で、他の電源に比べて最もコストが安く、クリーンなエネルギーだ」と専門家が言っていた3つのことを信じてやってきましたが、あの3.11以来、自分なりに勉強して、この“3つは全て嘘”だとわかったんですよ。

論語にも「過ちては改むるに憚ること勿れ」という言葉があります。私は総理時代

に誤った。その過ちを少しでも正していかなければいかんという気持ちで、原発ゼロ運動を始めたんです。

## 1つ目の嘘 - 「原発は安全である」 -

まず、原発は安全なのか。原発を戦後日本に導入してからの約 60 年間に、まず 1979 年にアメリカのスリーマイル島で大事故。1986 年にはソ連のチェルノブイリでまた大きな事故が起きた。それでも、日本の技術者は優秀で、安全対策も万全だから、日本で大事故は起きない。大丈夫だと言っていた。ところが福島あの地震、津波、事故があって、原発がメルトダウンを起こした。60 年間でも大きな事故が 3 つも起こっていて、その間、起こした人為的なミス、技術的な故障など、あげればキリがありません。

つい昨年ですが、九州の川内原発が原子力規制委員会の基準をパスした。それでも委員長は「安全だとは申し上げられない」と言っている。パスしているのに安全とは申し上げられないとはどういうことか。それに、政府は「世界一厳しい審査基準で安全が確認されたから再稼働する」と言うが、アメリカ、フランスと比べどこが厳しいのか、一つも公表されていない。

## 2つ目の嘘 - 「原発は他の電源に比べて一番コストが安い」 -

政府は未だに原発のコストが一番安いと言っていますが、まずコストの中に立地自治体に支払われる交付金が入っていない。さらに事故が起こった時の莫大な賠償金。全て国民の税金ですよ。福島の事故の賠償金は東電では払えないんですよ。

そして除染作業。毎日 7,000 人の作業員が働いているが、あの防護服は使い回しできない。全部廃棄しなきゃならない。それに作業員を毎日 7,000 人確保するのは大変なんですよ。放射能の中で何日も続けて作業できない。

こういうことを考えると、原発が一番安いなんてとんでもないですよ。金融機関だって政府の保証がなければ融資しません。原発は安いどころか「金食い虫」「金まみれの産業」です。

## 3つ目の嘘 - 「原発はクリーンエネルギー」 -

### 【核のゴミの捨て場所がない】

一番問題なのは、放射性廃棄物＝核のゴミです。中間貯蔵施設、最終処分場が未だに決まらない。今、自治体が手をあげないから、今度は政府が決めると言い出しましたが、政府が決めてできると思っている方が楽観的じゃないですか。

世界でただ一つの放射性廃棄物の捨て場所がフィンランドのオンカロ。私は 2 年前視察に行きましたが、地下 400m で 2 km 四方の広場に円筒形の筒を埋め込んでいる。フィンランドは岩盤でできた国、地震もない。それでも岩盤が水で湿っているので、10 万年間水漏れして腐食しないか検査が必要だという。日本は、400m も掘れば水が出てくる。日本でできるわけがない。

### 【核のゴミを“これ以上増やさない”のが大前提】

既に 54 基分の原発のゴミが溜まっていて、それを廃棄する場所も一つもできていないのに、再稼働したらまたどんどんゴミは増えていくんですよ。せめて「ゴミはもう出しません」と言うてからじゃないと、最終処分場についても各地域の協力は得られないと思います。

### 【産廃業者でさえ“捨て場所を見つけないと許可されない”】

産業廃棄物処理業者は、ゴミの捨て場所を見つけないと許可されない。その許可権を持っているのは都道府県知事ですよ。核のゴミは産業廃棄物より危険ですよ。捨て場所がないのに国が許可するのか不思議でしょうがないですよ。

### 【環境汚染産業 - 海の生態系を破壊している -】

今日は「九電と原発」という本を持ってきました。これに書いてありますが、原発は沿岸の海水を大量に吸い込んで、それをパイプに通して熱を下げています。その時、藻やプランクトンなどの微生物を大量に取り込むので、塩素系の薬品を使ってその死骸を流している。そして排出する時に、海の温度を高めているんです。海の生態系が変わっている。原発は環境汚染産業ですよ。



## 日本は地震国 ー原発をやってはいけない国ー

御嶽山、口永良部島の噴火だって想定外でしょ。九州には桜島、阿蘇もある。地震もこの10年間、マグニチュード7前後の地震が5回も起き、その度に原発はストップした。

まず2005年、宮城県沖地震。2007年、能登半島の地震。同じ時期の新潟県中越沖地震。2009年、駿河湾地震。そして2011年、東日本大震災。地震国日本、そして火山もいつ爆発するかわからない。日本は原発をやってはいけない国だと思いますね。

## 日本は既に2年近く、原発ゼロでやっている

私が原発ゼロを主張した時、推進論者は将来はともかく即時ゼロは無謀だと言った。2年前の9月に原発が全て停止した時、寒い冬がくれば原発の必要性がわかるだろうと。それがどうです。この2年間、寒い冬も、暑い夏も、どこも停電がない。電気が余っちゃってる。

## 日本はピンチをチャンスに変える国

### [オイルショックから学んだ、省エネ、代替エネルギー]

戦後の一番の経済危機は1973年のオイルショック。第4次中東戦争で石油危機が起こり、1バーレル2ドルが10ドル程度に跳ね上がった。インフレ当たり前。物価を抑えるのが政府の役目だった。なぜそんなパニックが起こったのか。1つ目は、お金さえあれば安い油が買えるので“備蓄しなかった”。2つ目は、1リットルの油を効率的に使うという“省エネの感覚がなかった”。3つ目は、いずれなくなる“油に代わるエネルギーの開発をしてこなかった”。

当時は油に対する依存度は70%を超えていた。この30年間、日本はこの3つの取組みに力を注いできました。そして代替りのエネルギーの一番の役目を果たしてきたのが原発です。

そして1年前、1バーレル150ドルになっても混乱は起こらなかった。それは3つの取組みで70%の依存度を40%に減らしていたからです。その間30%を原発がまかなってきた。今度はその原発をゼロにし、油の依存度も今まで以上に減らしていかなくてはならない。そのために自然エネルギーです。あの石油ショックがあったからこそ、日本は環境先進国になれたんですよ。太陽光は日が陰るとダメ、風力は風が吹かなきゃダメと言うけど、蓄電技術がどんどん開発されています。

### [敗戦からも立ち直った]

ピンチをチャンスに変えるのに、日本人は実に優れている。第二次世界大戦の時、アメリカやイギリスに満州から撤退しろと言われ、満州は生命線だと言って戦争に突入した。戦争が終わり、満州、朝鮮を手放した。台湾を失った。しかし、日本は戦前より繁栄しているじゃないですか。最大の敵だったアメリカを最大の味方にした。

### [焼酎もピンチをチャンスに変えた]

鹿児島でも一つ例があります。イギリスがサッチャー政権の時、同じ蒸留酒にもかかわらず、どうして日本は焼酎の税金がスコッチウイスキーより安いのだと言ってきた。同じにしると。当時の鹿児島では、「ウイスキーは高級酒で、焼酎は大衆酒。それを同じにするなんて無理だ、潰れてしまう」と反対したが、日本全体の貿易のことを考え、ウイスキーの関税を下げ、焼酎の税金を上げ、何とか焼酎業界はおさまった。

今はどうですか。焼酎は高級酒になってますよ。昔、40年前の鹿児島では「白波」くらいだったけど、今は「森伊蔵」とか「海童」「赤兎馬」「魔王」とか、日本酒より高い。スコッチウイスキーより売れている。手に入らない。焼酎業界は全然潰れてないんですよ。

こういう例を見ても、ピンチをチャンスに変えていく能力を、日本人は持っているんじゃないかと思いますね。

## 福島を事故を教訓に！ 自然エネルギーは天が与えたチャンス

福島の事故は大災害ですが、今まで気が付かなかった、太陽光、風力、地熱、バイオマス、波の力、潮の力、無限の自然界のエネルギーを我々の生活に活かしていく。そういうチャンスを、天が与えてくれたんじゃないかと思うんです。これは夢かもしれないけど、“実現できる夢”です。



既にドイツでもスペインでもデンマークでも、自然エネルギーに対する依存度は 20%を超えています。日本はまだ数%です。政府も福島事故の後、原発依存度を低下させると言っていました。それが今、これからも依存度を 20%程度維持しなきゃならないと言っている。これは、原発を維持していくために自然エネルギーが拡大していくのを防ぐと言っているのと同じですよ。こんなに馬鹿げた話はない。

### 鹿児島県の七ツ島メガソーラー視察 —地域のエネルギーは地域で消費—

今日、七ツ島の世界的規模のメガソーラーを視察しましたけど、九州には地熱もある。様々な自然エネルギーを活用して、地域で作ったエネルギーは、地域で消費していくことが大事。



### 自然エネルギーで健全な社会を！ “これから生まれてくる世代” に負担させない

自然エネルギーによって経済を発展させる社会の方が“健全”であるとは私は思っているんです。原発をやればやるほど、国民の税金は限りなく使われます。しかも、原発の負担は、我々が死んだ後も、若い世代や、“これから生まれてくる世代” が負担しなきゃならない。永い間、そのコストを負担しなければならないのが原発産業ですよ。

「安全、コストが安い、クリーン」は全部嘘だと言っているんだけど、誰一人「小泉さん、嘘は言わないでくださいよ」とは言っていない。それは私の言っていることが本当だからです。

### 原発ゼロで、自然エネルギーを発展に活かし、より良い国に

薩摩から素晴らしい人がたくさん出てくるけれど、幕末の志士の平野国臣が有名な短歌を残しています。「我が胸の燃ゆる思ひにくらぶれば、煙はうすし桜島山」。自分の熱い思いに比べれば桜島でさえ大したことはない。「少年よ大志を抱け」という有名な言葉があるけれども、老人だって大志を抱いていいんですよ。

原発ゼロで、自然界のエネルギーを我々の発展に活かしていく。生活に活かしていく。それを実現しなきゃいけないと思っている。原発ゼロでより発展する良い国を目指して、これからも頑張っていきたいと思います。

### 【記者会見風景】

講演後の約 30 分にわたる記者会見には、多くの報道関係者が出席し、質問が飛び交いました。その中で、小泉元総理は「安倍総理が決断すれば原発ゼロでやっていけるのにもったいない。歴史的役割を果たせる状況を活かしてもらいたい」として再考を促されました。



### 【マスコミ各社が報道】

講演会の模様は、東京新聞や九州の地方紙で数多く取上げられましたが、週刊朝日 6月19日号には「小泉純一郎氏動く『原発ゼロあきらめるな』」として4ページにわたり取上げられ、大きな反響を呼びました。



☆講演会の模様は城南信用金庫のホームページ <http://www.jsbank.co.jp> から動画配信しています。